

成果報告書

地域文化倶楽部(仮称)創設支援事業

団体名	一般社団法人日本伝統文化の会		
所在地	東京都港区	設立年	2020年
運営主体	一般社団法人日本伝統文化の会、東京都港区邦楽邦舞連盟、地唄箏曲美緒野会		
事業目標	子供達の豊かな感性や情操を養うことを目的に、日本固有の文化である邦楽のワークショップを授業や部活動の中で行っていく		
きっかけ	子供達が身近な地域で質の高い多様な文化芸術活動の機会を確保で切るよう、地域の文化施設や文化芸術団体、芸術系教育機関が中心となって、学べる環境を整えて行きたいという思いから始めた。		
団体・組織等の連携			
活動場所	都内小・中学校及び公共施設等		
活動概要	各学校の教室(ランチルーム等広い教室)や体育館、公共施設において講師2人から6人と授業の場合には音楽の教師と共に活動を行った。講師の人数や楽器の数、指導内容や方法は前年の経験を元に考慮して実施した。		

○本事業による成果

小学校の授業の一環としての活動面では、事前に音楽の授業で和楽器について、楽譜の読み方などを指導していただいていたので、参加者の興味は高く、初めて触れる楽器ではあるものの、2時間の授業内で飽きることなくリズムやテンポを合わせた合奏ができるようになった。

校長先生や音楽の先生へのインタビューでは「日本の伝統文化である和楽器を教えられる教師がいないこと」「楽器が常備されていないので見たり触れたりする機会がないこと」「楽器があってもメンテナンスの費用捻出などが困難であること」を課題として挙げられており、このような機会は大変価値があるので是非とも継続して欲しいとのご意見を頂いた。

放課後クラブでは学年の枠を超えて一緒に体験を行うことで、上級生が下級生をサポートする姿も見られ、コミュニケーションの活性化にも繋がった。

初めての和楽器ワークショップでは、舞台での発表会に参加し、他の参加者、講師と交流を深め、プロの演奏者との合奏に参加することでより達成感がえられた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

子供達がより興味を持ってくれるよう、模範演奏では邦楽の古典曲(六段の調)に加え、「紅蓮華」「パプリカ」を演奏し、同時に琴と洋楽の調弦の違い、13絃、17絃という楽器の違いについても知ってもらうことができた。

○運営上の工夫

前年の経験より、和楽器商と連携し、1人に一面ずつの楽器や備品を準備することが出来たので、限られた時間の中で飽きることなく楽しんで体験が実施でき、達成感ももたらせる事ができたと感じる。また、各自に楽器と部品を用意することでコロナの感染拡大対策にも対応できた。

○継続的な運営に関する課題・展望

授業の一環とした場合、1年に1回の開催となったが、校長先生、音楽教師や生徒からのフィードバックからも、継続的な実施が期待されている。今回の取り組みを基本とし、他の学区や地域にも幅広く提案していき講師の手配の関係上、早めのスケジュール調整が重要となってくる。今回の実施内容や課題を調整し新規の学校、放課後クラブへの企画提案を行っていく。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・提案

音楽授業の支援活動を拡大していくと共に、各地域で行っている放課後クラブやワークショップへの参加で、児童が和楽器に触れる機会を増やしていきたい。

また、継続参加している児童には「さくらさくら」以外にも馴染みのある洋楽やアニメソングにも挑戦する事を促し、和楽器の楽しさを知る事で、参加意欲を高めていく。

学校以外では地域の公共施設を利用しているので、地域で開催されるお祭りやイベントでも児童が演奏する機会を作ることができれば、地域と密接に連携した取り組みになると考える。

現在首都圏のみでの開催となっているが、楽器商や演奏家、講師のデータベース化を行い、他の地域も含め継続、拡大していける体制を整える。

○令和4年度 取組状況等「放課後クラブ」

参加者	人数等	小学校4年生から6年生の児童 1クラス当たり平均35人が参加
	学校名	港区立白金小学校・大田区立羽田小学校・江東区立第3砂町小学校
	募集方法	音楽授業の一環
指導者	人数等	教員1名 指導者2～5名
	募集方法	箏曲指導団体への打診
参加者の移動手段		各自
活動費用	指導者謝金等	謝金:5,100円/時間(交通費込み)
	その他	楽器レンタル、運搬、設営一式 55,000円/1回
活動財源	会費	授業の一環ということもあり、学校及び参加者の負担金無し
	その他	
スケジュール	基本活動	2時限を活用し以下のプログラムを実施 1.講師によるお琴の、歴史、名称、道具など説明 2.「さくら・さくら」の楽譜の読み方、座り方、弾き方などの説明 3.各自練習(講師が児童のところを周り個別指導) 4.音楽教師指導のもと合奏練習 5.講師による模範演奏「桜爛漫」「パプリカ」など
	年間	現行年1回の授業を請け負っているが、今後は各学校からの要望もあり、単発ではなく各学校において年2、3回の継続活動にしていきたい。
保険加入等		特に無し

【活動の様子（写真添付）】



一人ずつ楽器を用意し、十分な距離を持って配置した。正座するため足が痛くならないよう、ウレタン製の簡易座布団を用意した。



進行を音楽の先生にお願いしたので、スムーズかつ集中力を持って進めることができた。



お琴を聴いたり、見たことがあるかなどの質問や、楽器の各部位の名称が龍に関連している事など興味を持てるような内容を混ぜてて紹介を行った。



模範演奏では、音楽の授業でも聴く機会のある古典曲「六段の調」に加え、「紅蓮華」や「パプリカ」といった馴染みのある曲を演奏した。知っている曲は生徒達にも一緒に歌ってもらい、楽しんで参加してもらうことができた。



調弦(チューニング)や演奏時に、調子の仕組みや講師のテクニックがより理解できるよう近い距離で見学する事を促した。

講師がお手本を弾き、練習時の注意事項を説明した後、個々に練習を行ったが、講師が各自の席をまわり、わからないところ、難しいところを個人的にレクチャーし、コミュニケーションを図りながら全員が「さくらさくら」が弾けるようになるよう指導した。



参加者	人数等	小学1年生～6年生 各回平均30人が参加
	学校名	渋谷区各校の放課後クラブ(中幡小学校、富谷小学校、幡代小学校、鳩森小学校、加計塚小学校、神宮前小学校) 及び神明子ども中高生プラザでの定期活動
	募集方法	各放課後クラブ施設での児童への案内
指導者	人数等	指導者:2～3名 放課後クラブ運営団体:1名
	募集方法	箏曲指導団体への打診
参加者の移動手段		各自(開催小学校区在住)
活動費用	指導者謝金等	謝金:5,100円/時間(交通費込み)
	その他	楽器レンタル、運搬、設営一式 55,000円/1回
活動財源	会費	
	その他	
スケジュール	基本活動	1時間のクラスで以下のプログラムを実施 1.講師によるお琴の、歴史、名称、道具など説明 2.講師による模範演奏「六段の調」「紅蓮華」「パプリカ」と楽器や調弦の説明 3.「さくらさくら」の楽譜の読み方、座り方、弾き方などの説明 4.各自練習(講師が児童のところを周り個別指導) 5.全員で一緒に合奏
	年間	神明中高生プラザでは月1回の定期活動を行い、最終月度には同施設にて披露演奏を行なった。他の会場は単発開催であったが、今後継続活動できるプログラムに発展させていく
保険加入等		特に無し

【活動の様子（写真添付）】

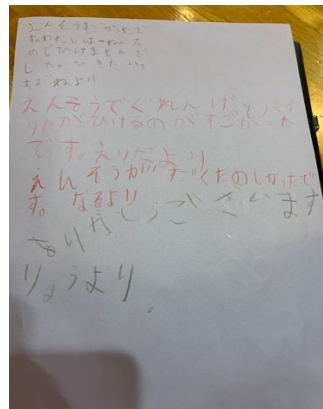


学校での授業同様、広い体育館を利用し、適切な距離を持って活動を行った。

楽器が1人ずつ用意できたので、飽きる事なく、約1時間のワークショップが開催できた。

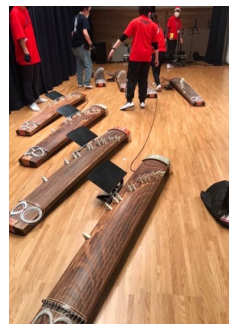
児童3、4人に対して1名の講師が、それぞれの児童に対して直接難しいところを指導し、ほとんど全員が短い時間の中で「さくらさくら」を演奏することができるようになった。

放課後クラブ運営者にも空いている楽器を使って楽器に触れる体験をしていただいたので、より理解を深めていただけたと思う。



終了後にワークショップには参加できなかったが模範演奏を聴いた低学年の児童よりお手紙をいただいた。今後は低学年にも参加してもらえよう、時間割などを検討していくことで、幅広い年齢層に対応していきたい。

年間のプログラムとして実施している放課後クラブでは、集大成として披露する場があり、児童たちに継続的に興味を持って参加してもらうこと、また達成感も得られた。他の活動も定期開催できるよう検討を行っていく。



参加者	人数等	5歳以上の未就学児から高校生までを対象:約120名
	学校名	
	募集方法	チラシの配布、ホームページ、ソーシャルメディアを利用した案内、施設からの依頼(英語児童ワークショップ)
指導者	人数等	各会場1~3名
	募集方法	箏曲指導団体への打診
参加者の移動手段		各自
活動費用	指導者謝金等	謝金:5,100円/時間(交通費込み)
	その他	発表会での誘導や楽器準備の補助への賃金
活動財源	会費	
	その他	
スケジュール	基本活動	月2回各地区にてワークショップを開催。お琴、お三味線を体験から「さくらさくら」が弾けるように指導。希望者は他地区およびプロの演奏者との合奏練習会、舞台での発表会に参加できる。
	年間	前期(7月から8月)5回開催 後期(11月から4月)13回開催
保険加入等		特に無し

【活動の様子（写真添付）】



都内の公共施設においてお琴とお三味線(希望に応じて選択)の定期開催の「初めての和楽器ワークショップ」を各地で実施した。半数以上の児童が複数回数参加し、「さくらさくら」の演奏にチャレンジした。



希望者には他の地区での参加者及び講師と合奏練習に参加してもらい、交流をはかると共に、講師を含む他の人との合奏を楽しむことができた。
同時に、お辞儀や姿勢など所作についても基本的な事を学び、体験した。



希望者は一般社団法人日本伝統文化の会主催の「ゆかた会」の舞台での演奏に参加した。服装については指定はなかったが、多くの児童がゆかたを着用して参加したので、同時に着物の場合の所作、気をつけることなどをレクチャーした。あまりない機会ということで、同行の保護者の方にも楽しんで頂けたので、今後の継続が期待される。(後期参加者は4月30日開催の発表会の舞台でも演奏に参加することが可能としている)

【活動の様子（写真添付）】



英語学童ACCESSからの依頼により都内にある3校にて小学校1年生から4年生を対象にした「はじめての和楽器ワークショップ」を開催した。



指導者より楽器や歴史の説明、模範演奏などのあと、実際に楽器に触る体験を行った。

お琴一面に対して複数名が交代で体験を行ったが慣れてくると1人で弾けるようになり、楽しんで参加ができたようである。

バイリンガルを育成する施設ではあるが、日本の文化についても触れ、理解を深めるプログラムを継続していきたいとの事でした。